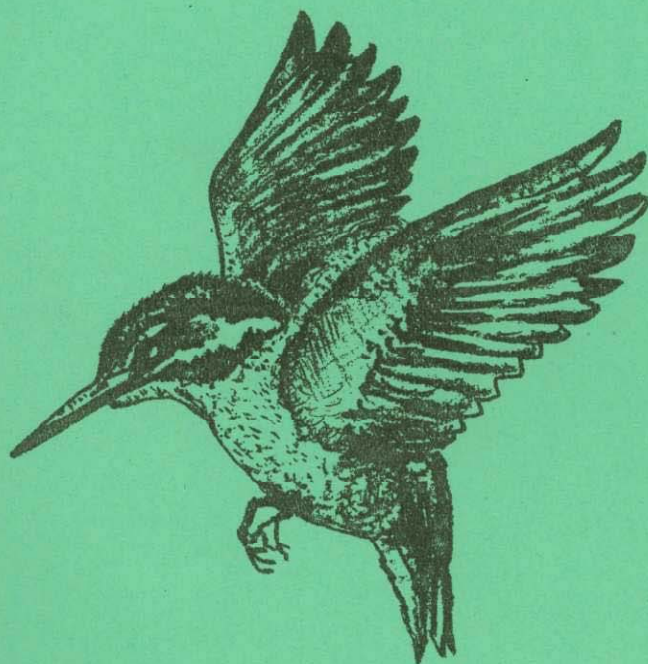


カワセミ

1989年 8月 第 3 号



八王子カワセミ会

カワセミ 第3号 目次

	ページ
☆ 第8回 ガン、カモ類全国一斉調査	1
☆ 浅川の野鳥87種を確認 —「浅川の鳥の見分け方」作成—	4
☆ 浅川のカルガモ繁殖状況調査	7
☆ 川に閉じ込められた野鳥達	9
☆ 浅川の野鳥展・開催実現か	13
☆ 定期カウント集計結果	14
☆ 鳥 信	21
☆ 東浅川のヒメアマツバメ	24
☆ 名古屋探鳥紀行	25
☆ 名古屋探鳥会に参加して	27
☆ 小山さんの野鳥造形展開く	28
☆ 意外に低かった巣箱利用率	29
☆ 五日市養沢探鳥行	30
☆ 朝霧高原探鳥会	31
☆ わが家の庭にオオタカ	32
☆ カルガモ繁盛記	33
☆ わが家の巣箱は高層住宅	34
☆ P. R コーナー	35
☆ 編集後記	36

平成元年ガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査

——浅川ではカモ8種類、2109羽をカウント——

毎年1月15日に、日本野鳥の会主催で行われる当調査は、今回で8回目になりますが、当八王子カワセミ会は今回もこの調査に参加しました。

日本野鳥の会、東京支部機関誌「ユリカモメ」の平成元年7月号に、今回の東京支部分の調査結果が発表されておりますが、これによると、浅川水系を含む多摩川水系では、カモ類13種、総羽数7795羽が記録されております。

八王子カワセミ会は、浅川水系の長沼橋から陵北大橋までの延長約11kmとその間の湯殿川、山田川、南浅川、城山川の各支流を調査しました。

その結果は、昨年と比べ種類ではオカヨシガモ、ミコアイサの2種が増え8種類となりましたが、総羽数では昨年と殆ど変わりませんでした(別表1)

また当日の調査では、カモ類を含め総種類で51種、7319羽が当区域で確認されました。この内、アオサギ、オカヨシガモ、ミコアイサ、ハマシギの4種は、昭和59年に当会がこの調査に参加して以来の初認記録です。

なお、今回の調査に参加し、野鳥のカウントを実施した会員は次の通りです。
ご苦労さまでした。

- [1] 北浅川(陵北大橋-松枝橋) -----野田洋次、小沢憲雄
- [2] 浅川本流(松枝橋-鶴巻橋) -----三好恒雄
- [3] 同 上(鶴巻橋-大和田橋) -----藤江 豊、田中英吉
- [4] 同 上(大和田橋-長沼橋) -----斎藤高昭
- [5] 川口川(川口橋-明治橋) -----阪東達也
- [6] 同 上(明治橋-浅川合流点) -----粕谷和夫
- [7] 南浅川(案内橋-浅川合流点) -----榛沢 努
- [8] 湯殿川(白旗橋-時田橋) -----阿江範彦
- [9] 同 上(時田橋-浅川合流点) -----門口一雄、門口裕子
- [10] 城山川(月夜峰新橋-浅川合流点) -----木村晴美
- [11] 山田川(山田橋-浅川合流点) -----門口一夫

(別表 1)

調査年次	1988年(昭和63年)			1989年(平成1年)		
	多摩川水系	Aの内、当会分		多摩川水系	Aの内、当会分	
	A	B	A B	A	B	A B
マガモ	387	12	3%	282	15	5%
カルガモ	958	643	67%	1140	653	57%
コガモ	1451	791	55%	2066	770	37%
ヨシガモ				12		
オカヨシガモ	12			127	2	2
ヒドリガモ	548	195	36%	881	193	22%
アメリカヒドリ				3		
オナガガモ	1958	476	24%	2124	449	21%
ハシビロガモ	32	17	53%	139	16	12%
ホシハジロ	661			350		
キンクロハジロ	109			256		
スズガモ	433			152		
ミコアイサ	22			53	11	21%
カモSP	130			210		
種類数計	11	6	55%	13	8	62%
個体数計	6701	2134	32%	7795	2109	27%

なお、前述の当日同時に行った全種類の調査カウント結果を次表にまとめました。

ガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉カウント結果 芝罘川流域(本流、各支流)の合計

年 1月 何日	59 15	60 13	61 15	62 15	63 15	01 15	備 考
005 カツアリ				2	3	2	昭和63年、平成1年の合計 63年 1年 A アヒ 16 19 B フト 179 258 C ガチョウ 1 1 D バニスマ 5
052 ヨイギ				1	8	21	
057 タイギ		1	5		3	8	
059 コギ	17	27	125	44	71	64	
062 アヒギ						1	
086 オドリ			1				
087 マギ	1	3	4	3	12	15	
088 カルギ	89	175	335	193	643	653	
089 コギ	249	468	432	593	791	770	
092 初雁						2	
093 ヒドリ	46	83	187	108	195	193	年次別調査(カウント) 場子戸折
095 オカギ	510	477	326	346	476	449	
097 ハシロ	2	3	3	18	17	16	
104 キンクワシ		2					
115 ミコアイ						11	
120 トビ			1	1		1	
145 フウゲン				1			
149 コジュケイ					4	1	
151 キジ					1	2	
173 タマシ	2						
177 カルドリ	15	2	2	1	15	3	昭和59、60年 浅川本流(鶴巻橋～長沼橋)
196 ハマシ						5	
214 クリシ	2			1		1	昭和61、62年 浅川本流(松枝橋～長沼橋)
218 イソギ	2	2	5	2	4	23	
230 タシ	6	3	2	10	1	5	昭和63年 浅川本流(陵北大橋～長沼橋)及び 浅川支流(川口川、南浅川、湯殿川)
245 コカメ	47	52	111	139	161	271	
296 キジバ	29	34	71	70	191	123	平成1年 浅川本流(陵北大橋～長沼橋)及び 浅川支流(川口川、南浅川、湯殿川、 城山川、山田川)
326 カサシ	1		3	4	10	10	
339 コウ					3	2	注：上記のとおり年次によりカウント した場所が異なりますので注意して下さ い(ただし、それぞれの区間別のデー タは別にとってあります)。
344 ヒヨ		4	17	21	17	12	
354 キセキ	5		2	2	19	27	
355 ハセキ	61	55	42	62	117	122	
356 ヒメキ	59	38	70	59	148	201	
363 ヒメ	78	43	51	64	77	101	
367 ヒヨ	17	38	82	60	158	189	
369 ヒス	5	5	14	11	15	13	
387 ショウビ	1	1	1	4	13	11	
405 ヲギ	55	22	121	75	127	254	
410 ヲギ		2	6	2	6	4	
425 ヒツ			2	1	2	1	
441 ショウ		14	26	25	53	39	
444 メ			1		2	3	
449 ホシ	22	22	136	123	258	269	
455 カラ	16	24	242	152	272	253	
461 アシ	2	16	16	32	56	15	
471 カラ	51	240	248	223	766	583	
485 イル					2		
486 シ		2	3	11	50	6	
488 スメ	379	1080	1630	1062	2590	1592	
493 ム	72	88	199	274	540	525	
498 オナ	3	4	10		25	68	
503 ハシ	9	5	15	12	79	60	
504 ハシ	5	15	2	29	85	60	

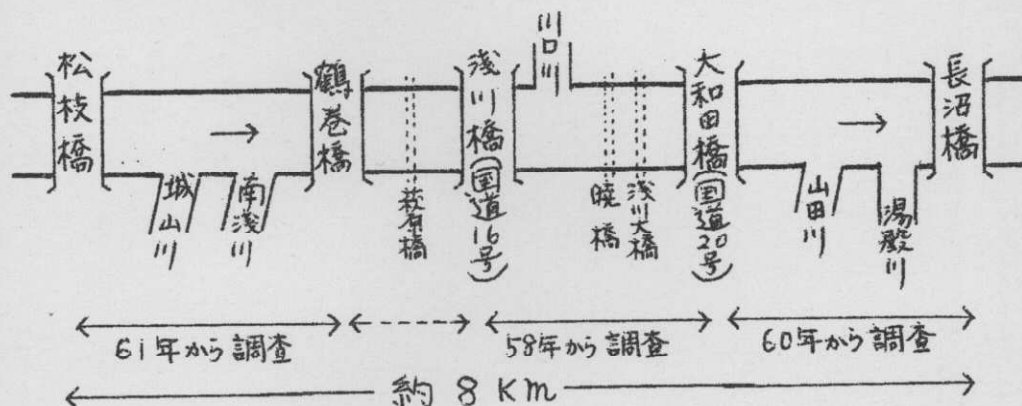
浅川の野鳥87種を確認

——昭和58年から6年半で——

昭和58年から浅川の野鳥観察とその数を調査してきましたが、平成元年の6月まで、6年半の間に87種を確認しました。

調査区域は松枝橋から長沼橋に至る約8kmの区間です(下図参照)。

[調査区域の概略図]



上図の通り58年から浅川橋—大和田橋間で調査を初め、その後60年から大和田橋—長沼橋間、61年から松枝橋—鶴巻橋間と徐々に区域を拡げていきました。

この区域は、浅川流域の平野部の内、下流の日野市側を除きほとんど平坦地で川の両側周辺は市街地、住宅地、工場用地等の開発が進み、農地や自然殖生が残っている所は殆ど有りません。

この区間の何処かで、毎年必ず見られる鳥は50種程います。そこで、これを基本種と呼ぶこととします(注、この基本種50種については、別途「浅川の鳥の見分け方、基本50種」として平成元年5月に説明資料を作成しましたので参照ください)。

この基本種以外に、毎年新しく(初めて)観察した鳥を、整理・集約したものが次表です。

毎年2-3種程の鳥が、新たに確認されていますので、数年後には100種の大台に達するのではないかと大いに期待されます。

※本稿ではクロトキ以外は飼育鳥野生化種(ドバト、アヒル、ベニスズメ、インコ等)は除外しております。

[基本種以外の初確認した鳥名リスト]

年 別	初観察した鳥の出現場所区分			出現 種 累計
	松枝橋－鶴巻橋	浅川橋－大和田橋	大和田橋－長沼橋	
昭和 58		51、トモエガモ 52、アカエリヒレアシギ 53、ヒメアマツバメ		53
59	54、タマシギ	55、ハ　ン 56、カッコウ		56
60	58、オシドリ		57、オオヨシキリ 59、キンクロハジロ 60、クサシギ 61、ホトトギス 62、コガラ 63、ビソズイ 64、ヒタキ	64
61	65、クロトキ 67、アマツバメ 70、オオジュリン		65、クロトキ 66、クイナ 68、アカハラ 69、コサメビタキ 70、オオジュリン	70
62	74、コヨシキリ	72、ハヤブサ 73、ハマシギ	71、アマサギ	74
63	78、ホオアカ	75、アオサギ	75、アオサギ 76、ミコアイサ 77、オオタカ 79、シロハラ 80、ミヤマホオジロ 81、カケス	81
平成 1	87、ヒレンジャク		82、カワウ 83、チュウサギ 84、オカヨシガモ 85、アメリカヒドリ 86、セグロカモメ	86

(注) 番号は初出現順、ただし、同一年内は分類順です。

[参考]

浅川の野鳥・基本種(50種)リスト

1. カイツブリ	11. ハシビロガモ	21. ユリカモメ	31. ヒヨドリ	41. カシラダカ
2. コイサギ	12. トビ	22. キジバト	32. モズ	42. アオジ
3. ササゴイ	13. チョウゲンボウ	23. カワセミ	33. ジョウビタキ	43. カワラヒワ
4. ダイサギ	14. コジュケイ	24. ヒバリ	34. ツグミ	44. イカル
5. コサギ	15. キジ	25. ツバメ	35. ウグイス	45. シメ
6. マガモ	16. コチドリ	26. イワツバメ	36. オオヨシキリ	46. スズメ
7. カルガモ	17. イカルチドリ	27. キセキレイ	37. セッカ	47. ムクドリ
8. コガモ	18. キアシサギ	28. ハクセキレイ	38. シジュウカラ	48. オナガ
9. ヒドリガモ	19. イソサギ	29. セグロセキレイ	39. メジロ	49. ハシボコガラス
10. オナガガモ	20. タシギ	30. タヒバリ	40. ホオジロ	50. ハシトガラス

- 注、1. 鳥名の頭の番号は日本産鳥類分類表順による
 2. 鳥名の下線印は一年を通じて浅川にいる鳥(留鳥)

浅川で通常みられる野鳥を基本種として50種選定し、それぞれの鳥の見分け方を簡潔に説明した資料を作成しました。浅川の鳥を一人でも多くの市民の方に知ってもらう事を目的に作りました。鳥の名前を知ることは鳥に親しみを持つ第一歩で、鳥に親しみを持つ人が増えれば、自然保護を考える人が増えると期待されます。この資料は主として公開探鳥会で配付しており、去る4月28日の読売新聞多摩版に大きく掲載され、方々から問い合わせがあるなど、大変反響を呼んでおります。

平成元年・カルガモ繁殖状況調査集計表(6月～7月)

区 間 別	カルガモ親子連れ			カルガモ 子無し成鳥	調 査 担当者名
	組 数	親	子		
川 口 川 (中野橋=東久保橋)	7 組 (13)	7 羽 (13)	26羽 (71)	60羽 (96)	三好恒雄
北 浅 川 (元木橋=陣馬高原下)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	11 (-)	今井達郎
山 入 川	- (1)	- (1)	- (6)	- (0)	
小 津 川	- (1)	- (1)	- (4)	- (2)	
城 山 川	9 (0)	13 (0)	71 (0)	11 (6)	木村晴美
南 浅 川 (合流点=JR中央線)	5 (2)	5 (2)	15 (8)	41 (18)	榎沢 努
南 浅 川 (JR中央線=最上流)	1 (-)	2 (-)	6 (-)	2 (-)	川上 恵
小 仏 川	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	榎沢 努
山 田 川	1 (1)	1 (1)	6 (3)	9 (3)	門口一雄
湯 殿 川 (合流点=白旗橋)	4 (4)	4 (4)	18 (21)	22 (47)	平沢辰夫
浅 川 本 流 (陵北大橋=鶴巻橋)	1 (1)	1 (1)	5 (10)	14 (37)	小沢憲雄
浅 川 本 流 (鶴巻橋=長沼橋)	13 (14)	12 (14)	55 (71)	128 (70)	斎藤高昭
浅 川 本 流 (長沼橋=一番橋)	2 (7)	2 (7)	16 (42)	55 (52)	門口一雄
浅 川 本 流 (一番橋=多摩川合流)	2 (8)	2 (8)	10 (40)	26 (71)	阿江範彦
合 計	45 (52)	49 (52)	228 (276)	379 (402)	

(注) 下段()内の数字は昨年(s63)の調査結果、-は未調査を表す。

川に閉じ込められた野鳥たち

(緑の国勢調査に参加して)



はじめに

環境庁の第3回自然環境保全基礎調査の一環として、冬鳥分布調査が昭和59年12月1日から60年1月31日までの間に行われた。

この調査は5万分の1の地形図を南北各1Km毎に細分化してできる1Km²のメッシュ単位に行くことを基本とし、各メッシュ内に生息する野鳥の種類と各種類毎の数を調査するものである。

私は、八王子市の中心部から10メッシュ分を選んでこの調査に参加した。私はこの調査を、59年12月末から翌年1月初めの年末年始休暇の1週間を利用して行った。時間の制約も有って、夫々のメッシュ毎に1回限りの調査(平均調査所用時間1メッシュ当たり約2時間)に留まり、たまたまその時に出会った鳥をカウントしたものであることを予めお断りしておきます。

1. 調査地域の概要

調査地は、八王子市でも最も市街化が進行している八王子駅を中心として選んだ(別表第1図参照)。

第1図の内、メッシュ記号①、②、③、④、及び⑤が浅川の部分、(a)、(b)、(c)及び(d)が市街地部分であり、⑩は参考として両者には属さないが都立小宮公園を主体とした自然環境が良く守られている地域を加えたものである。

2. 調査結果の概要

確認された鳥の種類は、第1表の通り総数で48種(ドバトを含む)である。内訳は、水鳥・水辺の鳥が19種、その他の鳥として、都市的な鳥10種・それ以外の鳥として19種の計48種である。

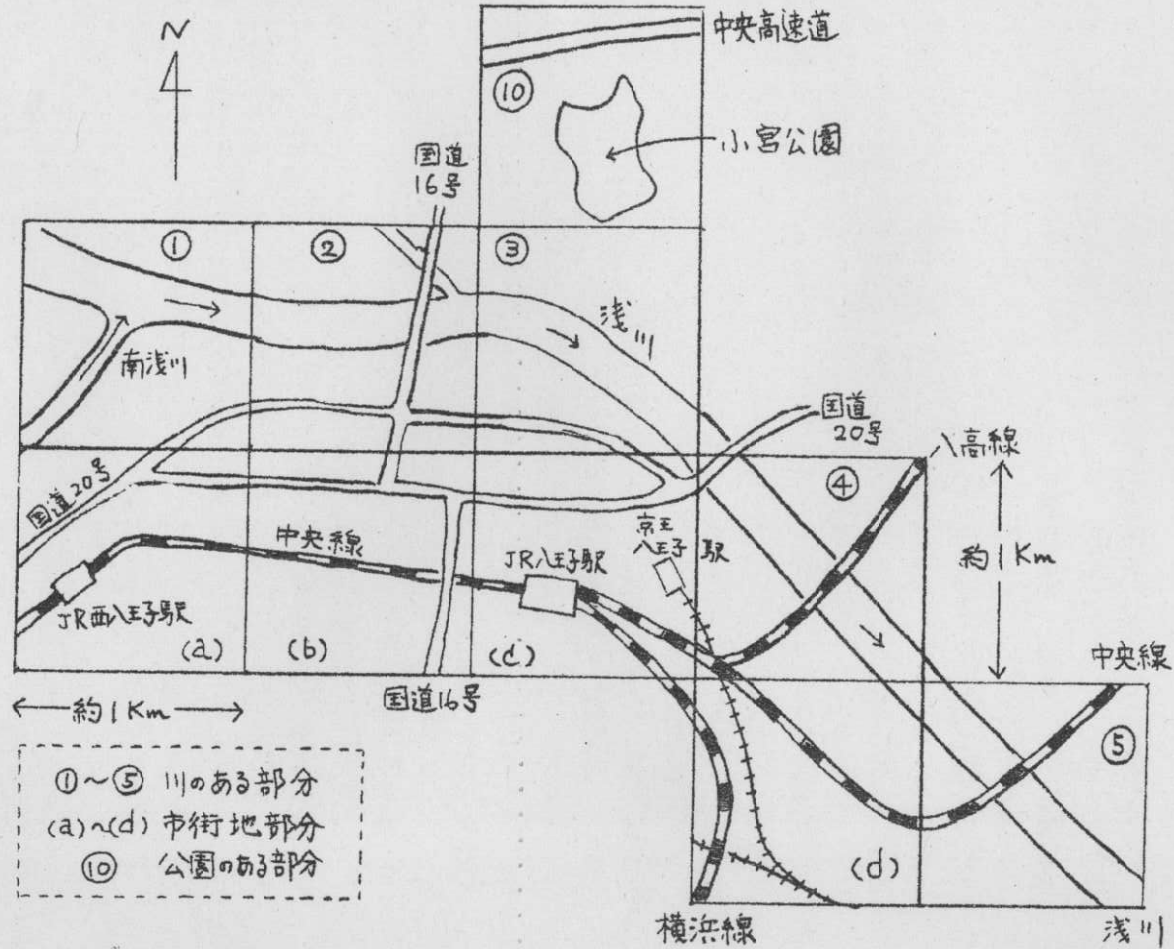
メッシュ別にみると、河川の地域と市街地とでは2~3倍の差が認められた。総羽数でも、1メッシュ当たり平均で、河川地域で約900羽、市街地では300羽と3倍の差が認められた。

3. 野鳥との共存を考える

(1) 川に緑を

この調査から、野鳥が川に閉じ込められている様子がよく判る。水鳥・水辺の鳥を除いた鳥の種類で比較すると、例えば⑤には(c)の10種と比べ24種もの鳥が来ている。

(※1図) 調査地域のメッシュ図



(第1表) 調査結果

種別		川					市街地				公園	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
水鳥・水辺の鳥	ゴイサギ					1						
	タイサギ					1						
	コサギ	2	7	6	3	10						
	マサギ		4	10								
	カサギ	30	50	20	74	41						
	コサギ	2	50	148	86	280						
	ヒドリサギ	5	2	11	16	59						
	オカサギ	100	55	88	64	144						
	ハシロサギ	1	2			3						
	キンクロハシロ					2						
	カウチドリ	1	1	2	2							
	イツサギ			2		1						
	タサギ	3		2								
	エリカサギ	2	20	16	11	9						
	カサギ	1	1	1		1						
ササギ			1		2							
ハクセキレイ	10	12	10	22	15		1	2	11			
セウセキレイ	14	18	10	7	12							
クササギ	19	8	15	15	10							
種数計	13	13	15	10	16		1	1	1			
その他の鳥	都市的な鳥	キツネ	2	14	9	8	10	9	10	5	15	17
		ヒヨドリ	10	14	10	18	8	34	23	19	30	55
		ジョウビチキ			1	1	1		1	1	1	
		ツグミ	13	2	4	12	6	3	1	2	10	6
		シジュウカラ	2	4	4	4	8	10	10	12	2	58
		カラヒタ	58	30	100	90	70	2	2	3	30	44
		スズメ	420	255	310	370	160	110	87	95	260	110
		ムクドリ	1	60	36	35	10	21	4	5	50	6
		ハシロガラス	2	10	4	4	5	2	8	4	2	26
		ドバト	55	25	150	220	40	45	71	22	104	20
	種数計	9	9	10	10	10	9	10	10	10	9	
	それ以外の鳥	TE	1				1				1	
		ジョウゲン					1					
		コジュケイ		1			2					12
		キジ					1					7
コガラ						2						
ヒバリ				2	2	2				5		
モズ		2	1	4	2	2				2		
シロハラ						2					1	
ウグイス						2					1	
エガ						2					20	
メジロ					2							
ホシ	8	10	38	4	16				2	30		
カシラ	14	10	4	24	10				2	20		
アジ		6		4	12	2	2			14		
カ					2					2		
シメ					2					61		
カス										3		
オオカ		6			4					4		
ハシロガラス	2	2	2	2	4	2			3	4		
種数計	5	7	5	6	14	2	1		6	13		
合計	種数計	27	29	30	26	40	11	12	11	17	22	
	羽数計	780	680	1020	1100	970	240	220	170	530	520	

今や、野鳥が安心して住める場所は⑩のようなところ以外では川しかないともいえる。

その川の部分についてみると、その内⑤が同じ川でも他と比べ10種以上多く観察された。

同じ川の部分でも、このように⑤にだけ何故鳥が多く集まるか。

第1図だけでは読みとれないが、現場を見ると⑤の部分は浅川の左岸が林（雑木）で覆われている部分が多く、①～④では兩岸とも裸の堤防で、且つコンクリートの建物が川に迫っている所が多い。

この事実から、浅川のような幅の狭い都市内の川でも、岸辺が木に覆われていると、野鳥が多く集まって来ることが理解できる。

最近の堤防は水を抑えることしか考慮していないようで、裸（草に覆われているが）の堤防を築き、且つコンクリート護岸をしてしまうものを多く見受けるが、鳥が安心して住めるように、また人間が都市生活を行う上の貴重な憩いの場として、堤防に緑を取り戻すことが大切である。

この場合、桜のような植木的な樹木を植えるのではなく、その土地に適応しているコナラ、クヌギのような雑木的な木の方が遙かに優れていることはいうまでもない。

（2）都市公園の役割

⑩の中心は小宮公園で、周辺に畑地、墓地、住宅地があり、地形は浅川の北側の段丘となっている。

小宮公園はコナラ、クヌギ等が優占し、2次林の様相が比較的よく保たれている。

⑩だけで観察されたものは、コジュケイ、シロハラ、エナガ、イカル並びにカケスの5種もあり、また⑤でも⑩でも観察されたが、⑩の方が数の上で遙かに多かったものはヒヨドリ、シジュウガラ及びシメである。

この差は明らかに⑩の中の小宮公園に由来したものであり、狭いながらも武蔵野の面影を残すこの公園の存在は、都市の中のオアシスとして極めて大きな価値を有していると云える。

この小宮公園は、雑木林として存在することに意義があり、箱庭的、又は遊園地的な公園に改造されないことを切望するものである。

(3) 都市の中にも緑を

今や都市は野鳥達を川や公園（但し、小宮公園のように比較的自然而が保たれている所）に閉じ込めてしまったが、(d)の存在に注目したい。

ここでは都市的な鳥の他に6種（トビ、ヒバリ、モズ、ホオジロ、ハシボソガラス及びカシラダカ）が僅かではあるが、川以外の場所で認められた。

特にモズが2羽いたことは注目に値すると思う。ここは住宅地中心で僅かに畑や放置された広場がのこされている地域である。

鳥は羽根を持っていて自由に移動できるので、少しでも彼等の住めるところが有れば、やってくる事が証明された事になる。

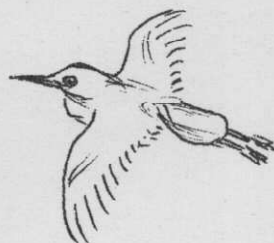
鳥の住める所をもっと増やそう・・・個人のレベルでは、庭の緑化公のレベルでは、道路沿いなどにグリーンベルト、公園等には林を設けるなど都市の中に少しでも多くの緑を作っていきたいものである。

（粕谷和夫）

浅川の野鳥展・開催実現か！

——来年4月29日（緑の日）に横山町三角広場で——

当会の日常活動の成果をもとに「浅川にはこんなに多くの野鳥がいる」ことを広く市民にPRし、自然と野鳥の保護を訴えることを目的とした「浅川の野鳥展（仮称）」を開きたいと希望しておりましたところ、今般、八王子市の中心地で国道20号線と16号線が交差する横山町の三角広場で、来年3月29日に開催できる見通しが得られました。この機会に、是非ともこの企画を実現させ成功させたいと思います。内容や推進体制など、今後相談しながら取り組んでいきますので、実施に向かって、会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。



◆ 定期カウント集計結果 (平成1年1月～6月)

当会が行っている浅川を中心とした6カ所の定期カウント(毎月1回)の集計結果は次の通りです(定期カウントの計は年2回、6ヵ月分をまとめて会報カワセミに掲載)。今回は、別表のり6ヵ所の調査地域をそれぞれ一表にし、確認した鳥全部とその数を記入しました。

◎ 調査地域の概要

調査地域	地域の概要
1. 浅川 松枝橋－鶴巻橋	松枝橋付近では川幅が狭くなる。南浅川の合流点と城山川の合流点が1つのポイント。中央高速道橋付近とその上流北側は林が有り、比較的自然而保たれている。
2. 浅川 浅川橋－大和田橋	1、2、3の中で最も自然度が低い所である。兩岸堤防は元横公園の桜並木以外、林になっている所は無い。水管橋付近と極楽寺付近がポイント。
3. 浅川 大和田橋－長沼橋	北岸側は雑木林が比較的多く中央線鉄橋付近と長沼橋迄は自然度が高い。南岸側は裸地で僅かに山田川と湯殿川の合流点がポイント。中洲面積は最も広い。
4. 小宮公園	コナラ、クヌギなどからなる雑木林地帯。園内は木道が整備され、小川と池(弁天池)がある。周囲の墓地、畑草地も調査の対象としている。
5. 片倉城跡公園	池有り、沼有り、林有りの公園で傍を湯殿川が流れる。傾斜林を登ると開けた芝生の広場とそれに続く畑や雑木林が接している。
6. 多摩川 滝山城跡下	滝山城跡下の断崖、下の運動公園及び多摩川から構成され、多摩川は川幅が浅川の3～4倍と広い。河原は草や木が豊富に繁り、川も深い所、浅い場所、流れの急、遅水溜り等、変化に富んでいる。

浅川探鳥の記録(松枝橋—鶴巻橋) 平成1年(1~6月)

月 時 天	日 間 気	0115 650- 1010 晴	0302 700- 1000 曇晴	0326 630- 0940 晴	0429 650- 0920 晴	0530 600- 0830 晴	0630 700- 0930 曇	備 考
052	コイギ	20				4	2	月別カウント担当名者 1月 2月 3月 4月 5月 6月 三好 三好 三好 三好 三好 三好
054	ウゴイ						2	
059	コギ	7	4	7	5	4	1	
087	マギ		2	2				
088	ヌギ	36	35	52	39	26	35	
089	コギ	87	58	50	7			
093	ヒドリ	17	8					
095	オカ	44	4					
120	トビ			1		1	3	
151	キ		1	1	6	2	1	
176	コトリ						2	
177	カササギ	2	4	1	2	1	4	
218	イソギ	1	3	2	4	3	1	
230	タビ	5	3	4	1			
245	ツバメ	30						
296	キハト	20	20	15	14	10	27	
319	ヒメアマツバメ		3					
326	カケヒ	2	1	2	1			
339	コガラ			2				
344	ヒバリ		4	2	4	6	2	
347	ツバメ				43	56	57	
350	イワツバメ			5	24	30	25	
354	キセキレイ	3	1	2	1		4	
355	ハクセキレイ	11	11	24	2		4	
356	セキレイ	30	16	12	17	6	12	
363	セビ	16	6	9				
367	ヒトリ	28	20	20	20	17	26	
369	ヒ	1	3	2	1		1	
374	ヒレンジャウ			6				
387	ジュビ		1	2				
405	ツグミ	62	25	35	8			
410	ウグイス	1	1	4			1	
416	オオシ					5		
425	ヒッカ				5	7	4	
441	シジュウカラ	2	2	2	4	2	6	
449	ホシ	52	60	33		2	1	
455	カササギ	57	12	2				
461	アサ	2	1	1				
464	オシ		1					
471	カラヒ	145	70	20	4		30	
486	シメ	4		1				
488	スズメ	230	100	100	80	80	60	
493	ムク	61	50	60	51	42	48	
498	オカ		25		5		3	
503	ハシ	14	14	20	8	6	11	
504	ヒ	5	13	6	8	2	4	
B	ド	30	10	10	8	19	60	
計(種)		31	35	35	27	22	29	

浅川探鳥の記録(浅川橋—大和田橋) 平成1年(1~6月)

月 時 間 天 気	0128 700- 0930	0226 1230 1500	0325 700- 0930	0429 630- 0900	0527 520- 0800	0701 550- 0900	備 考
052 コソサギ					4	6	月別カウント担当者 1月 2月 3月 4月 5月 6月 野田 野田 野田 野田 野田 野田
054 ヨソサギ				1	2	2	
059 コソサギ	2	5	3	4	5	3	
087 マカサギ		2					
088 カカサギ	25	30	35	35	25	30	
089 コカサギ	70	23	20	10			
093 ヒリサギ	17	14	10				
095 オカサギ	100	45	30				
120 トビ				1			
151 杉			1	2		1	
176 コノドリ						1	
177 幼ノドリ		2		1	5	4	
214 クリソバ				2			
245 ヲカサギ	110	30	20				
296 キジト	15	20	35	8	20	13	
344 ヒバリ				2			
347 ツバメ			5	20	30	20	
350 イソツバメ				60	50	40	
354 トラツバメ	1	2	2	2	2	2	
355 ハシロツバメ	7	3	5	2	2		
356 ヒメツバメ	13	15	10	15	13	7	
363 トラツバメ		1					
367 ヒメツバメ	10	20	13	10	10	20	
369 エズ	2	2					
387 ショウリキ	2						
405 ツグミ	25	25	2				
416 オオソバ					2	2	
441 ショウリキ	4	4	5	6	4	7	
449 トラツバメ	13	7					
461 アサギ	2						
471 カササギ	70	20	10	4	6	3	
488 スズメ	30	30	30	35	30	20	
493 ヒメツバメ	27	10	35	20	10	30	
498 オカサギ		3	2	2	2	3	
503 ハシロツバメ	3	3	3	4	3	4	
504 ハシロツバメ	10	15	15	10	13	7	
505 トビ	30	45	30	30	40	30	
計(種)	23	25	22	24	21	22	

浅川探鳥の記録(大和田日橋~長沼橋) 平成1年(1~6月)

月時	日帯	0115 800- 1100	0205 705- 1020	0320 615- 0910	0409 710- 1150	0521 521- 0825	0625 711- 1119	備考					
天	気	曇	晴	晴	晴	曇	曇						
005	カイツリ	2						続き					
052	ゴイサギ				1	5	16	1月	2月	3月	4月	5月	6月
057	ダイサギ	8	2				1	493 ムクドリ					
058	チュウサギ		1					57	42	43	37	21	45
059	コサギ	22	18	7	8	2	2	498 オカ					
062	アオサギ		1	1				503 ハシブトガラス					
087	マサギ					2	1	10	12	7	2	8	13
088	カサギ	54	32	104	128	72	67	504 ハシブトガラス					
089	コサギ	315	139	243	182			2	7	2	4	3	5
092	オカサギ	2						A アヒル					
093	ヒドリサギ	124	126	101	2			B フクロ					
095	オカサギ	173	78	6	4			39	31	47	34	48	55
097	ハシロサギ	16	6	10	2			C セセイヤコ					
115	ミコアイサ	11	14					月別かつお打日担当者					
120	トビ		2	1	1	1	2	1月	2月	3月	4月	5月	6月
149	コシユクイ		4		1	2		斎藤	斎藤	斎藤	斎藤	斎藤	斎藤
151	ギン		1	1	5	5	3						
176	コサドリ				2	2	2						
177	イカルサドリ	1		4	3	9	4						
196	ハマシギ	5	12										
217	キアシサギ					8							
218	イソサギ	5	6	2	11	5	7						
230	タシギ		2	2	2								
245	ユリカモメ	143	134	15		1							
246	セウカモメ		1										
296	キジハト	38	25	36	32	29	31						
326	カサセミ	1	2	2			1						
339	コゲラ				1	1	1						
344	ヒバリ	12	9	9	4	7	4						
347	ツバメ			5	13	35	58						
350	イツツバメ			3	23	68	17						
354	キセキレイ	3	2	1	1								
355	ハウセキレイ	18	22	23	9	3	3						
356	セウキセキレイ	22	17	5	6	1	1						
363	タヒバリ	39	39	32	23								
367	ヒヨドリ	8	16	7	17	15	22						
369	モズ	2	4	4			2						
387	ショウビタキ		2	4	1								
405	ツグミ	47	48	56	34								
410	ウグイス			3	2								
416	オオソシキリ					2	3						
425	ヒョウ	1		1	2	8	6						
441	シジュウカラ		2	2	3	2	2						
444	メジロ			2									
449	ホオジロ	63	82	34	2								
455	オシロイ	85	55	17									
461	アオジ	3	7	6	5								
471	カササギ	24	33	11	4	4	46						
486	シメ			3	1								
488	スズメ	100	121	130	120	110	110						
計(種)		34	39	40	39	30	31	計には「続き」分を含む					

小宮公園探鳥の記録 平成1年(1月~6月)								
月	日	0121	0227	0320	0420	0525	0629	備 考
時	間	730- 0920	730- 0915	730- 0910	700- 0850	730- 0920	620- 0815	
天	気	晴	晴	晴	晴	曇	晴	
088	加那	2	2	2				月別カウント担当者 1月 2月 3月 4月 5月 6月 辰沢 榛沢 榛沢 榛沢 榛沢 榛沢
089	コガ		4					
129	ノソ				1			
149	コジュケイ		1	12	6	5	3	
151	セ			1	4	4	2	
296	シロト	14	7	8	6	5	3	
336	アカガラ				1		1	
339	コガラ	2	3	7	2	2	2	
344	ヒヨ	1	5	3	3	4	6	
347	ツメ				5	13	24	
350	イソハシ					1	5	
354	ヒキヒキ						2	
355	ハクセキレイ	2						
367	ヒヨドリ	11	12	9	38	28	26	
369	ス	2	1	4				
387	ショウビク		2	1				
405	ツグミ	12	18	29	26			
410	ウグイス		1	1	1			
435	エガ						3	
441	シジュウカラ	23	23	34	28	22	16	
444	スズ				4			
449	ホオジロ		5	3			2	
455	ガラウカ	5	20	15				
461	アヒ			1				
471	ガラヒ	28	65	12	7	16	13	
486	シメ	5	3					
488	スズメ	70	30	118	60	70	70	
493	ムクドリ	46	33	47	17	15	42	
496	カス		2	3				
503	ハシホソガラ	7	6	13	7	5	5	
504	ハシトガラ	2	4	7	5	3	2	
計		16	21	21	18	14	18	

片倉城跡公園周辺探鳥の記録 平成 1 年 (1月~6月)								
月	日	0103	0221	0321	0429	0527	0621	備 考
時	間	930-	930-	630-	600-	700-	730-	
天	気	1140	1200	0900	0730	0830	0900	
		時	曇	晴	晴	晴	曇	
052	子母			1				月別カウント日付 1月 2月 3月 4月 5月 6月 門口 三好 門口 門口 平沢 平沢
059	コサ	2	2	1	2	2		
088	城戸	2	2	2	5		1	
089	コサ	1	6	6				
095	オサ	6	4					
120	ヒ		1					
145	オサ			1				
149	コサ		2		3	2	2	
151	オサ			1	3			
245	オサ	1						
296	オサ	6	3	5	5	6	3	
319	オサ				1			
326	カサ	1	1	2	1			
331	アサ	1		1	1	1		
339	コサ	2	2	4	4	2		
344	ヒ				2	1		
347	カサ				17	12	18	
354	オサ	1				2	1	
355	カサ	2		1				
356	カサ	3	3	1	3	3	3	
363	カサ	1	1					
367	ヒ	13	18	9	50	16	18	
369	ヒ	1	2	2				
386	オサ	3		1				
405	オサ	10	12	6	8			
410	オサ	2		8	6	2	2	
435	オサ		15	6			6	
441	オサ	19	26	17	12	7	8	
444	オサ	2			2			
449	オサ	2	8		1			
455	オサ	1	5	25				
461	オサ	6	6	7	2			
471	オサ		32	37	2		50	
485	オサ			2				
488	オサ	9	50	16	15	16	42	
493	オサ	4	20	6	7	22	30	
498	オサ	16	5		8	8	4	
503	オサ	2	10	4	4	6	3	
504	オサ	1		2	1			
505	オサ	4	1	4	3	4	1	
506	オサ	4	2	1	2		1	
計 (種)		30	26	29	27	17	17	

多摩川沿山城跡下探鳥の記録 平成14年(1月~6月)

月 時 天	日 間 気	0102 715- 0925 晴	0219 930- 1210 晴	0325 900- 1130 晴	0426 630- 0910 晴	0527 900- 1200 曇	0625 1300 1530 晴	備 考
005	カツヲ	19	8	9	4	5	4	糸冠き 1月 2月 3月 4月 5月 6月
054	ツヨイ						3	
057	タイサ	1						
059	コサ	1	2	2	2	1		
062	アサ	2		2	1			
087	マカ	2	2					
088	カカ	20	17	23	28	25	17	498 オカ 5 6 2
089	コカ	55	50	25	42		1	
091	コサ	5	7	2				503 ハシブカラス 10 50 20 25 14 11
092	カサ	20	2	5				
093	ヒドリ	55	41	10				504 ハシブカラス 11 7 10 7 2 5
094	マカ		1					
095	オカ	72	7					A ヒル 5 3 2 4 4 4
097	ハシブ	15	17	16				
115	ミコ	15	1	2				B トビ 20 2 2 2 10
120	ヒ	1		1	1	3	1	
149	コサ		1	3	5	3	1	月別カウント担当者 1月 2月 3月 4月 5月 6月
151	キ				6	4	2	
167	ハ				2			505 カサ 11 7 10 7 2 5
176	コサ				1	1	1	
177	イカ	7			1	1	2	506 カサ 11 7 10 7 2 5
196	ハサ	145	150	100	73		1	
214	クサ				1			507 カサ 11 7 10 7 2 5
217	キ					8		
218	イサ		3	2	7	1	3	508 カサ 11 7 10 7 2 5
230	タサ	1			2			
245	コカ	35	10	3	5			509 カサ 11 7 10 7 2 5
246	セウ	1						
251	ウミ			2				510 カサ 11 7 10 7 2 5
271	コサ					2		
296	キハ	10	2	3	10	2	4	511 カサ 11 7 10 7 2 5
302	カサ						1	
326	カサ	1	1	2	1	2		512 カサ 11 7 10 7 2 5
344	ヒル	4	1	5	8	10		
347	ツバ				3	4	10	513 カサ 11 7 10 7 2 5
350	イツ				2			
354	キ					1	1	514 カサ 11 7 10 7 2 5
355	ハセ	4	3	5	3	4		
356	セウ	10	7	4	6	6	4	515 カサ 11 7 10 7 2 5
363	タ	9	1	3			3	
367	ヒ	6	3	9	11	11	7	516 カサ 11 7 10 7 2 5
369	ヒ	5	1	2	4	3	2	
387	シ	2	1	1				517 カサ 11 7 10 7 2 5
405	ウ	12	35	35	21			
410	ウ	1		3	3	2		518 カサ 11 7 10 7 2 5
416	オ					9	10	
425	ヒ	2			7	6	5	519 カサ 11 7 10 7 2 5
441	シ		2		2			
459	ヒ	32	13	3	12	7	5	520 カサ 11 7 10 7 2 5
455	カ	17	9	5				
461	ア	21	11	3	2			521 カサ 11 7 10 7 2 5
471	カ	55	28	2	4	2	5	
486	シ	41						522 カサ 11 7 10 7 2 5
488	ス	50	30	30	18	21	20	
計(種)		43	37	37	38	32	30	計には「続き」分を含む

鳥 信・鳥 信・鳥 信・・・・・・・・



このコーナーは、平成1年1月から6月まで浅川流域で確認された珍しい鳥を紹介するコーナーです。()内は確認者名。

1. 夏鳥の初認

- ・イワツバメ 3月13日 浅川、暁橋下に営巣 3羽 (榛 沢)
- ・ツバメ 3月16日 榎原街道、中野忠実屋前の電線 2羽
(三 好)
- ・ツバメ 3月21日 浅川大橋下流北岸、元横公園前 1羽
(榛 沢)
- ・コチドリ 4月 9日 中央線鉄橋上流 2羽 (探鳥会・斎藤)
- ・オオヨシキリ 4月30日 浅川大橋付近 ♂1羽 (斎藤)
- ・ササゴイ 5月 4日 浅川橋下流約100mの川岸 1羽 (粕谷)
- ・ササゴイ 5月 4日 極楽寺境内の樹上 2羽 (榛 沢)
- ・キアシシギ 5月 7日 大和田橋上流 2羽 (斎藤)

※ 浅川以外の場所

- ・コムクドリ 4月23日 多摩川滝山城跡下の河原 1羽 (探鳥会)
- ・コヨシキリ(s) 4月28日 西武北野台北側、山間の畑 (平 沢)
- ・カッコウ(s) 5月16、22日 町田市小山遺跡発掘の山 (平 沢)
- ・ホトトギス(s) 5月29日、6月3日 同 上 (平 沢)
- ・ヨ タ カ(s) 7月 7日、9日 浅川実験林北側 (川 上)

(s)・・・さえずり

2. 繁殖の情報

- ・キジバト 八王子市八幡町甲州街道アーケード下に営巣中
(4月30日から調査中)
- ・キジバト 大和田橋下流北岸側の運動場横の柳の木 5月16日に
2羽を確認、5月26日以後巣立つ。(小 山)
- ・コゲラ 5月14日前記大和田運動場のトイレ横のヤナギの木で
巣立ち直前の親子を観察 (探鳥会)
- ・コゲラ 浅川大橋南岸(元横会館)裏の檜の木 5月28、30日
(斎藤、小山)

2. 繁殖の情報 (つづき)

- ・セツカ 4月 5日 浅川大橋上流、巣作り中を発見 (斎藤)
- ・モズ 5月 7日 大和田橋上流、斎藤宅前の中洲でヒナを確認
(斎藤)
- ・コチドリ 5月 7日 暁橋上流の中洲で卵を発見 (斎藤)
- ・イカルチドリ 5月14日 大和田橋下流でヒナ1羽発見 (探鳥会)
- ・イカルチドリ 5月21日 中央線鉄橋下流でヒナ3羽発見 (斎藤)
- ・ムクドリ 5月 初旬 大和田町6丁目小山宅前の空家2階の戸袋
に営巣、5月30日4羽巣立ち。(小山)
- ・メジロ 川上会員宅(元八王子3丁目)庭の棒樫の木に営巣し、
6月25日 3~4羽巣立つ。(川上)

3. 稀少種などの出現

- ・カワウ 1月30日 大和田水管橋北側を下流へ向って飛ぶ 1羽
(榎沢)
- ・アメリカヒドリ 1月 2日 中央線鉄橋下流♂1羽(斎藤、粕谷、門口)
- ・アメリカヒドリとヒドリガモの交雑体
2月 5日 中央線鉄橋下流、ヒドリガモ10羽の群れ
の中、♀1羽 (斎藤)
- ・ミコアイサ 1月15日 大和田橋~長沼橋 14羽 (斎藤)
- ・ミコアイサ 1月22日 浅川元横公園前 ♀1羽 初めて大和田橋
を越える。(斎藤)
- ・ミコアイサ 2月18日、19日 大和田水管橋~大和田橋
♂1羽、♀2羽 (斎藤)
- ・ハマシギ 1月 2日 中央線鉄橋下流 4羽(粕谷、斎藤、門口)
- ・ハマシギ 1月15日 同上 5羽 (斎藤)
- ・オカヨシガモ 1月15日 中央線鉄橋付近 2羽 (斎藤)
- ・ハヤブサ 1月17日 山田川合流点、ヤジマ生コン工場裏の高圧
線鉄塔 1羽 (斎藤)
- ・ハヤブサ 1月19日 同上 1羽 (斎藤)

3. 稀少種などの出現 (つづき)

・ハヤブサ	1月25日	大和田橋上空を下流へ飛ぶ。	(斎藤)
・ハヤブサ	2月8日	ヤジマ生コン裏より下流へ向かう。	(斎藤)
・ <u>チュウサギ</u>	2月5日	湯殿川合流付近、ダイサギ、コサギと一緒にいる。	(斎藤)
・ <u>アオサギ</u>	2月5日	中央線鉄橋付近	1羽 (斎藤)
・アオサギ	3月20日	同上	1羽 (同)
・ <u>セグロカモメ</u>	2月5日	大和田橋上流、魚を捕る	1羽 (同)
・ルリビタキ	3月15日	小宮公園奥ロータリー付近	♀1羽 (榛沢、田中、平沢)
・カワセミ	3月15日	小宮公園弁天池	♀1羽 (榛沢、田中、平沢)
・ <u>ヒレンジャク</u>	3月26日	松枝橋下流約100mの南岸河川敷き内の樹上	6羽 (三好)
・ホオアカ	4月22日	浅川大橋付近	♂1、♀1羽 (斎藤)
・ビンズイ(s)	4月30日	小宮公園コナラ林	数羽 (粕谷)
・クログミ	5月1日	今熊山の麓(豊が原)	2羽 (同)
・クログミ	5月4日	小津川上流	数羽 (同)
・クログミ	5月5日	裏高尾小下沢	数羽 (同)
・キビタキ	5月1日	今熊山山頂東側下	1羽 (同)
・ク ロ ジ	5月2日	片倉城跡公園住吉神社北側下	♂1羽 (粕谷)
・イ カ ル	5月4日	小津川熊野橋下	約20羽 (同)
・アオバト	5月5日	堂所山周辺	5羽 (同)
・コ ル リ	5月5日	裏高尾小下沢	1羽 (同)
・オオルリ	5月5日	同上	2羽 (同)
・カワガラス	6月21日	北浅川高留橋-落合橋	2羽 (今井)

4. その他

・ウグイスのさえざり	1月26日	中野上町5丁目	(三好)
・コウモリ	5月4日	浅川橋周辺、真昼間の出現	1頭 (粕谷)

(注) 鳥名のアンダーラインは探鳥会、定期カウント等で確認されたものです。

東浅川のヒメアマツバメは約50羽



前号でお知らせした東浅川のヒメアマツバメの調査は、会員の川上さんを中心に毎月調査が進められております。

未だ調査開始から半年しか経っておりませんが、今までに判明したことは次のとおりです。今後さらに調査を続けることによって、繁殖状況なども判ってくるものと期待されます。

- (1) 元来この場所は、イワツバメの集団営巣地であったが、ヒメアマツバメがその巣を横取りし、今年、イワツバメが実際に利用している巣は、ここでは1巣しか確認出来ていません。
- (2) ヒメアマツバメは約50羽、利用している巣の数は約40巣確認されたが、個体数と巣の数の関係がよく判りません。(巣の数が40なら、個体数は80になるはずである)
- (3) 通常は、毎日朝一斉に巣から飛び出し、夕方一斉に戻ってきて入巣するパターンをとっており、日中の巣の出入りは少ない。
朝の飛出しは、他の鳥の活動開始より遅く、日の出2-3時間後であり夕方の帰巣は、日没時、少し暗くなりかかった頃である。
- (4) 4月-5月頃になると、活動状況に変化が現れ、日中の巣への出入りが頻繁に行われるようになってきた。



名古屋探鳥紀行

——今年は大変実り多い、楽しい名古屋行きでした——

去る2月10日から13日にかけて、名古屋へ赴任中の粕谷会長からお誘いいただき、有志で出掛けました。今年で2回目となります。

：参加者：

粕谷、榑沢、門口夫妻、平沢、今井、三好、の7名

・2月10日(金)

先発組(榑沢、平沢、今井、三好)は八王子を午前10時出発、東名高速を一路名古屋に車を走らせ、粕谷会長の社宅に午後4時30分頃無事到着、後発組の門口夫妻も午後9時近くに到着し、焼肉でアルコールと野鳥談議に夜の更けるのも忘れて花を咲かせ、楽しい探鳥会前夜祭となりました。

・2月11日(土) 晴 7時出発

第1探鳥地——木曾川(岐阜県・川島町) —8時20分~9時25分

認めた鳥・・・27種

ベスト3・・・カワアイサ、カワセミ、イカルチドリのディスプレイフライト

埼玉県野鳥の会の方々とお会いしました。残念乍らコウライアイサは見る事ができませんでした。

第2探鳥地——庄内川河口(名古屋市) —11時15分~12時15分

認めた鳥・・・23種+フラミンゴ2種

ベスト3・・・ツクシガモ、ダイシャクシギ、カンムリカイツブリ
名古屋市野鳥観察舎では、昼食をとり乍らビデオで野鳥観察記録を観せていただき、指導員の方に色々ご指導をいただく等歓迎を受けました。

第3探鳥地——榑斐川・今尾橋(岐阜県・養老町) —15時~16時15分

認めた鳥・・・14種+ドバト

ベスト3・・・タゲリ、マガモの大群、脱色ツグミ(バフ変)

何百羽というマガモの大群には驚きました。また全身白銅色の脱色ツグミを発見して一同大騒ぎとなり、早速平沢さんが望遠カメラで写真に撮り、後日、日本野鳥の会へ鑑定に出すことにしました。

(このツグミについては別掲)

日一杯観察し、夕暮れ迫る中、会長宅へ帰り、今日の探鳥行の収穫を一同で話し合いながら夕食に舌づつみを打ちました。
(次号へ続く)

・2月12日(日)晴 7時出発

第1探鳥地——神野新田(豊橋市) — 8時50分~10時35分

認めた鳥・・・37種+ドバト。[アシタバ(野草)が沢山生えているのを観察]

ベスト6・・・オオジュリン、クイナ、タゲリ、ケリ、ヨシガモ
モズ(♂が♀に餌を与えているのを観る)

第2探鳥地——伊良湖岬(渥美町) — 12時29分~13時8分

認めた鳥・・・10種

ベスト2・・・トビ(営巣を観察)、メジロ

岬の有名な井筒食堂に入り、昼食に大アサリ定食を食べました。
井筒の親父さんに、汐川新田にオオハクチョウがきていると教えられ、帰路を変更して立ち寄ることになりました。

第3探鳥地——汐川新田(田原町) — 14時15分~15時

認めた鳥・・・26種

ベスト3・・・ウミアイサ、ホオジロガモ、オオハクチョウ

帰りが遅くなることを気に掛けながら、立ち寄りましたが、来てみてほんとに良かった。

めったに見られないオオハクチョウやウミアイサ、ホオジロガモを観察することが出来たのだから・・・

昨年もそうでしたが、粕谷会長の情熱溢れる案内と指導には一同ただ々々感激ひとしおで、出会った鳥たちとの思い出を心に焼き付け、またの日を期しながら東名道を一路帰途につきました。

鳥の名まえさて?

春
告
鳥

翡
翠

鶇
鷺

鶺
鴒

啄
木
鳥

'89年 名古屋探鳥会に参加して

寄稿：平沢 辰夫

今回で2回目というカワセミ会の名古屋探鳥会に、入会して日の浅い私も思い切って参加させていただきました。

10日の夜、名古屋市千種区の粕谷会長の宿舎に集合し、早速、会長さんが用意された材料で夕食の準備を整え、数々の料理と飲み物で楽しく歓談、明日からの探鳥に夢をふくらませながら床に就く。

※ 11日（土）晴

午前7時に宿舎を車3台で出発、木曾川河口を川島町まで走って広大な河口堤防よりお目当てのコウライアイサを探すが、生憎この日は姿を見せてくれず、各地から来ていた同好の人達と共にガッカリしたが、カワアイサ、イカルチドリ、オカヨシガモ等 27種を覗いて先を急ぎ、庄内川河口の名古屋市の野鳥観察舎に移って、ダイシャクシギ、ツクシガモ、カンムリカイツブリ、フラミンゴなど24種を観察して、昼食（門口夫人作のオニギリ）を済ませ、午後は途中三川公園などを探鳥しながら、所用で岐阜の方に行かれた会長さんとの合流点、榎斐川の今尾橋に15時に到着。

ここでは、広い川面を埋めつくすような各種のカモの大群や、タゲリや白色ツグミ（日本野鳥の会に報告）などを夕闇迫る迄観察して、午後6時頃に宿舎に戻りました。その晩は、風呂を沸かす人、米をとぐ人、ナベ料理を作る人とそれぞれ分担して、全く楽しい交歓会第二夜と相成り、時の経つのも忘れての歓談の内に第一日を終わりました。

※ 12日（日）晴

今朝も7時出発、東名高速を豊川で下りて渥美半島に入り、8:50 神野新田と云う広大な農作地の中の沼地を主に10:35迄探鳥、クイナ、タゲリ、ケリ、オオジュリン、各種カモ等40種近くを比較的近い距離で覗いて、次は一路伊良湖岬に出て、名物の大アサリ定食で昼食、午後は豊橋に近い汐川干潟等2~3ヶ所で15時迄探鳥後、汐風に吹かれた体に温かいコーヒーを飲み乍ら鳥合せを行い、16時会長とお別れして帰路についたわけです。

2日間天気にも恵まれ、あの多忙なスケジュールを見事に案内下さった会長のお陰で多くの鳥達に初めて会えたこと、又原価主義で実に楽しい集いを演出する先輩諸氏の有益な話等も含めて、本当に忘れる事の出来ない感動の三日間でした。

小山さんの第4回野鳥造型展開く

当会の会員小山万太郎さんが、昨年に引き続き第4会目の個展を平成元年4月29日（緑の日）に八王子市大和田町の自宅庭で開催しました。

小山さんの制作するバードカービングは、小山さん独自の考案によるもので、一般的に行われている木彫りのものとは異なり、身近にある発泡スチロールやセメントなどを主材料にしており、日本中何処を探しても他に同じものは有りません。

小山さんの説明によると、発泡スチロールを大まかに削り、細い針金を巻き、その上に砂を混ぜたセメントを塗り鳥の形を整える。

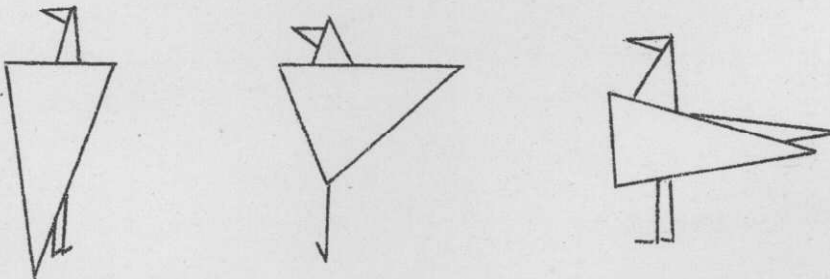
3日程乾燥させ、さらに上塗りをして表面が軟らかいうちに針先で模様を彫る。クチバシは塩化ビニール製品、足は針金を使い、最後に水性ペイントで細かく模様を描き仕上げるのだそうです。

出来上がったものは、一般の木彫りのバードカービングと全く変わらず、本物の野鳥をほうふつとさせる素晴らしい出来栄です。

今年は、浅川の野鳥50種・57点の力作が展示され、約150名という一般市民の方が見物に訪れました。

「展示物に自由に触って観てください。壊れたらまた作りますから」と云う小山さんの言葉が印象的で、その暖かい気持ちに包まれた雰囲気の中で、一つの作品が見物の人々に大きな反響を呼びました。

なお、当日は、当会員の斎藤高昭さんの野鳥の写真と、平沢辰夫さんの浅川のイラストマップが協力展示されました。



意外に低かった巣箱利用率

——片倉城跡公園の巣箱中間報告——



当会では、今年の1月29日に片倉公園内に巣箱を架けました。架けた巣箱は会員有志の提供、手作りによるもので、シジュウカラ用14箱、コゲラ用1箱の計15箱です。

その後、会員の平沢さんを中心に、三好さん、門口さんなどにより利用状況を調査してきました。また、5月14日には、浅川公開探鳥会の後、ここに立ち寄り、参加者によって一斉調査を行いました。

2-3月頃の調査では、それぞれの巣箱の近くにシジュウカラが集まって、巣箱への出入りの観察が記録されました。

しかし、5月14日の一斉調査の結果は次のとおりでした。

実際に卵があり、利用が確認できた巣箱は田中さんのもの、坂東さんのもので、既に巣立たとみられるものは藤江さんのものと、計3箱だけの利用実績でした。

意外であったのは、クモにより占領されているものが4箱もあったことでこの内、三好さんのものは、途中までシジュウカラにより巣材が運び込まれた後、クモの侵入により放棄されてしまいました。

小山さんのものには、ハチの巣が作られていました。

榛沢さんのものは、出入り口の穴がキツツキに突かれて大きくなっていましたが、巣箱の中は空でした。

【真昼のコウモリ】

コウモリは普通夕方うす暗くなって姿を現し、盛んに飛びまわりますが、去る5月4日の午後2時過ぎ、未だ陽の高い快晴の青空のもと、浅川橋付近に出現しました。1頭のコウモリで、スズメより小さく、カラスアゲハを1-2まわり大きくした感じで、羽は青空をバックに白っぽく透けるように見えました。盛んに飛び回り、ホバリングのような飛び方もし、よく観察すると、飛んでいる虫を獲っている様子でした。川の水面すれすれに下降してツバメが水面上の虫を獲る時と同じようなかっこうもしました。

約10分程で視界から消えましたが、珍しい光景であると思い報告します。

(粕谷和夫)



五日市養沢探鳥行 (元年6月10日-11日)

前日からの雨の為、小下沢キャンプを養沢鐘乳洞小屋に変更して実施した。朝から、電話であちこち場所探しをして、やっと見つけた日ノ出山登山口の山小屋である。今時めずらしいランプの下での一夜となりました。

道中の養沢探鳥は、悪天候のためかウグイス、ヤブサメ、ミソサザイ等の鳴き声は聞えるが姿は見られない。足下の河原から飛立ったカワガラスが唯一の成果。小屋の脇の鐘乳洞でキクガシラコウモリとカマドウマを見つけ観察して雨空のウッパンを晴らす。

夜は、怪しげなランプの灯に惑わされながらも、手作りの山賊料理とアルコールで鳥談議に花を咲かせました。

二日目、早朝の探鳥会も雨と二日酔いの故か、成果は今いち・・・残念。帰路、潮田会員からの情報によるアカショウビンを見に檜原村に立ち寄ることになり車を走らせる。

目的地の北秋川、檜原診療所側の橋の上には既に数名の人が屯ろしており、カメラを並べてアカショウビンを待ち構えていた。

我々グループも、雨の中を待つこと約2時間。遂に待つ鳥現われず・・・残念ではあるが、後日に夢を託して引き上げることとしました。

参加者：粕谷、三好、榎沢、斎藤、田中、今井、平沢、福島、門口(9名)

見た(声を聞いた)鳥： カケス キセキレイ セグロセキレイ メジロ
カワガラス ヤブサメ ウグイス ミソサザエ イカル シジュウカラ
ホオジロ ホトトギス クロツグミ コジュケイ ヒガラ ムクドリ
ハシボソカラス ハシブトカラス ヒヨドリ ツバメ キジバト

計21種

番外： キクガシラコウモリ カマドウマ モリアオガエル
カジカガエル ムササビの巣

寄稿：門口一夫

朝霧高原探鳥会も今年で4回目を迎えた。

昨年の探鳥会でアカモズの美しさ、カッコウの声のひびき、津久井湖でのブッポウソウとの出会い、さらに榛沢コック長の料理に感激し、今年は年間の計画決定時から楽しみにしており参加させていただいた。

今回は、6月10、11日の計画が7月8、9日に変更となり梅雨空の真っ只中で天気予報を気にしつつ決行となった。

初日、中央高速を經由し富士スバルラインより御庭、奥庭と歩く。

御庭では、ルリビタキの声に聞き惚れていると、直ぐ近くにホシガラスが現れ我々を歓迎しているようであった。奥庭では、売店の傍らの水場にビンズイを初めとして、メボソムシクイ、ウソ、キクイタダキ、ヒガラ、と次から次へ現れ、2階からは双眼鏡が無くてもキクイタダキの頭の赤い帯が確認できた。売店の主人の話では明け方の4時頃が最も良いそうである。因みに1泊2食で5000円で150人は収容できるとのこと。。。

翌日は、生憎の雨で朝霧高原の入口までで断念し、帰途についた。

次回は、是非アカモズとカッコウに出会いたいものだ。

：参加者： 10名 (内女性2名)

：認めた鳥：

(1) 富士スバルライン (御庭、奥庭) 8日、10:10~14:00

・ルリビタキ ・ホシガラス ・アマツバメ ・ビンズイ ・ヒガラ
・カヤクグリ ・メボソムシクイ ・キクイタダキ ・ウソ

以上 9種

(2) 藤江氏別荘周辺 8日、18:00~19:30

・ヨタカ ・カケス ・キジバト ・アオバト ・コゲラ ・ヒガラ
・アカハラ ・カッコウ ・トラツグミ ・ミソサザイ ・ヤマガラ
・メジロ ・ウグイス ・ホトトギス ・アマツバメ ・イカル
・(番外-野うさぎ)

以上 16種

談合坂SAにて (9日朝)

・お腹が空いたねえ、オニギリが食べたいなあ・・・
・車の何処にも無いですよ・・・ゴミと一緒に捨てたのかナァ・・・
・折角、女性陣が心を込めて作ってくれたのに・・・ム>無念



わが家の庭にオオタカ!

寄稿：川上 志

「庭にオオタカ」といってもご理解いただけないと思いますので、少しく説明いたします。

私の家は、多摩御陵の西北、農水省浅川実験林のすぐ北側にあり、四季を通して、ツグミ、ウグイス、メジロ、シジュウカラなどの小鳥達が庭にやってきます。

今年は、シジュウカラが戸袋の中に営巣、6月12日の朝4~5羽が巣立ちました。丁度その頃、玄関横の棒樫の樹にメジロが営巣していて、盛んに餌を運んで子育ての最中でした。巣は地上2メートル位の棒樫の枝にハンモックのような格好をした小さな巣で、数羽のヒナが黄色い口ばしを開け餌をねだっており、巣立ちを楽しみにしておりました。

6月25日(月)、早朝、メジロ親子と巣を観察して、八王子カワセミ会の浅川定例探鳥会に参加しました。午後からは、南浅川上流域のカルガモ親子の調査とカウントをし、午後4時少し前に帰宅して直ぐにメジロの巣を観ると、ヒナは既に巣立ちして、庭の梅の木とキンモクセイの木の枝にいて親から餌を貰い元気にはしゃいでいました。

それから間もない午後4時20分頃、メジロが異様な鳴き声で騒ぎ立てているので、屋外に出て見ると、この付近では見たことの無い猛禽類と思われる鋭い眼をした大きな鳥が、メジロの雛を捕まえ、路地に降りて、アッという間もなくその鋭い口ばしでウブ毛をむしり喰べはじめたのです。弱肉強食とはいえ一瞬の出来事に身震いを感じました。

多分、オオタカだったと思いますが、とにかく写真をとる思いカメラを持ち出して15メートル位の距離から1枚撮っておきました。

アッという間の出来事でしたが、「わが家でオオタカを見た」とは本当に驚きました。

：粕谷会長のコメント：

去る7月9日に、この原稿と写真1枚を川上さんからいただきました。写真で見る限りでは、はっきりしませんが、ハイタカの♀のようにも見えます。川上さんの話では、カラス大に感じたとのことですので、オオタカの可能性もあると思います。いずれにしても、この2種の内どちらかが川上邸に出現したということです。

カルガモ繁盛記



——カルガモ親子に魅せられた一カ月——

寄稿：小山 万太郎

今年も都心の人工池で、カルガモの家族にカメラの放列が向けられている頃ここ浅川のカルガモ家族は、人々に騒がれるわけでもなく毎日を一生懸命生きぬいて活動しています。

そこで、私がこの1カ月、毎日の散歩の途中で出会ったカルガモの子育ての様子を記してみました。

- [その1] 5月30日※・☛ 大和田橋上流（明神町側）
7羽連れ、フ化後2～3日位、同日2回観察するもその後不明
- [その2] 6月14日※ 浅川大橋下流（大和田町側）
8羽連れ、フ化後4～5日位、周囲をハシボソカラスが5羽程飛び回り、親ガモが狂気の様になって抵抗していた。
数日後、7羽になっていた。1羽はどうなったのだろうか。
7月20日現在、7羽共元気で見える。羽も大分長くなり体も親ガモと殆ど同じ位になっている。
- [その3] 6月19日☛ 大和田橋下流（大和田町側）
阿川工務店前の流れの中の直径1m位の中洲で抱卵中を発見し、4、5日続けて観察していたが、降雨で増水し流失してしまった
- [その4] 6月21日☛ 大和田橋上流（玉姫殿前）
6羽連れ、フ化後2～3日位、数日後4羽に減り、その後10日位経って全く見られなくなった。転居？
- [その5] 6月22日☛・☛ 大和田水管橋上流（大和田側）
1羽連れ、フ化後2週間位、何時も親ガモによく守られているのびのび育っている。7月20日現在、無事生育中を観察した。
- [その6] 7月14日☛、※ 浅川大橋上流（暁町側）
子1羽、フ化後2週間位、迷子らしく、近くの成鳥を親と思って慕っている様子で、成鳥の2羽は無視していたが、虐待するわけでもなく一緒にいた。
7月20日 親ガモに会えたらしく2羽で見える。
- [その7] 7月14日 暁橋上流（暁公園側）
4羽連れ、フ化後3週間以上、コンクリートの上で体を寄せあつてくつろいでいた。少し離れて親鳥もリラックス中。

- [その8] 7月15日 ● 大和田橋下流 (堤防の外れ付近)
6羽連れ、フ化後3週間位。
- [その9] 7月15日 大和田橋下流 (大和田公園横)
4羽連れ、フ化後1週間位。
- [その10] 7月19日 ● 浅川大橋上流 (郵便局寄り)
2羽連れ、フ化後1カ月位。

私が観察したのは以上です。不確実ではありますが前掲の[その4]がその後[その7]となったかも知れませんが、成長振りから見てそのような気もするその他の家族で見られ無くなったのもあるが、きっと何処かで元気に育っていることだろう。昨年と比べ今年は繁殖の時期が遅く、繁殖率も低いと感じた。これらの疑問点は、来年への宿題となるだろう。

我が家の巣箱は高層住宅??

我が家の庭木(アオモジ? 2, 5 m)の巣箱から年2回づつシジュウカラの雛が巣立っていたが、今年は異変が起きた。

3月初め、盛んに巣材を運びはじめ今年も来てくれたかと楽しみにしていたところ、中旬過ぎに、時々激しい鳴き声があるので見ると、何時の間にか雀が入り込んでいたのだ。結局、完全に乗っ取られてシジュウカラは来なくなってしまった。

そこで、断を下し巣箱を開けてみると、コケなどの巣の上に、2階のようにして雀の巣が出来ている。

私はこれを取除いて、入口を小さく補修し又掛け直した。

すると、5月の末から今度は何と、その箱の上にキジバトが盛んに巣材を運び込んでいるではないか。

目下観察中だが、若しこれが完成して、雀の巣を残しておいたら、3階建ての鳥の巣を見ることが出来たのにと、残念に思っている。

寄稿：平沢 辰夫



P. R コーナー

◎ 平成1年(1989年)8月から12月迄の探鳥会スケジュールは次の通りです。奮ってご参加ください。

- ・ 8月13日 定例探鳥会(大和田橋-長沼橋)
- ・ 9月15日 遠出探鳥会-シギ、チドリ他-(小島新田)
- ・ 10月 8日 定例探鳥会(大和田橋-長沼橋)
- ・ 11月12日 公開探鳥会(鶴巻橋-松枝橋)
※ 市広報、新聞等に一般公開として掲載
- ・ 12月10日 定例探鳥会(大和田橋-長沼橋)
※ 午後から片倉城跡公園の巣箱(1月設置した)の清掃をします。
- ・ 12月31日 忘年・遠出探鳥会(千葉県、銚子港の予定)

※ 以上の他個別または臨時に探鳥会を実施する場合にはその都度お知らせします。

◎ 去る2月11日名古屋探鳥会の折り発見した「脱色ツグミ」について日本野鳥野の会から下記のような回答が届きました。

粗谷和夫様

1989年4月27日

前略

野鳥記録委員会に貴重な記録をお寄せくださりましてありがとうございます。
ます。

記

観察年月日: 1989年 2月 11日

種名: ツグミ 1 (バウ変)

場所: 岐阜県養老町瑯斐川

上記の記録は1989年4月の野鳥記録委員会での検討の結果公式記録として認定いたしましたので、お知らせいたします。

また、「野鳥」誌のフィールドノートへの記録の掲載は本委員会にて判断させていただきますので御了承ください。

(財)日本野鳥の会 研究センター内
野鳥記録委員会

編集後記

- ☆ カワセミ第3号が発刊の運びとなりました。
今回も、原稿、ワープロ打ち、印刷、装丁、冊子作成と会員有志の協力で奉仕に依り出来ました。
当誌が、自然を、野鳥を愛する人々に少しでもお役にたつことがあれば幸いです。
- ☆ 名古屋に赴任されていた粕谷会長が去る7月転勤で東京に戻られ八王子に帰ってこられました。 当会の活動も一層活発になって充実してくるものと期待されます。
- ☆ 暑い陽差しの午後、軒先を吹抜ける涼風にふと秋の気配を感じる。やがて、夏鳥達の旅立ちと冬鳥達の訪れがはじまる。
それにしても、今年はカワセミとの出会いが少なかったような気がするの、編集子だけの経験だろうか。
- ☆ 去る5月末、アメリカはカリフォルニア州のチコ市という所で、編集子は全く日本語を話せないアメリカ人の友人と二人でバードウォッチングをやりました。 言葉は通じないが珍しい鳥を沢山観ることができました。また行きたいと夢を膨らませている。
- ☆—編集部からのお願—
会報カワセミへの投稿は直接編集長（三好）までお寄せください。他の役員さんに原稿等を依頼されますと編集に間に合わないことがあります。

カワセミ

1989年 8月 第3号

発行人 粕谷 一夫

編集人 三好 恒雄

☎ 八王子市中野上町5-29-3 (☎) 26-8634

